

## 要注外来生物リスト 無脊椎動物(陸生節足動物を除く)

### 被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

和名	学名	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	淡水産	意図的 食用・増養殖	生態系(競合・駆逐・捕食、 環境攪乱など)	特に希少な水草や水生昆虫への影響が懸念されるが、既に蔓延している地域が多く、また、ペットとしての飼養も極めて多いため、適正な執行体制の確保や効果的な防除が困難である。個体の移動や分散につながるような利用をやめるよう十分に注意することが必要であり、特にニホンザリガニの生息域で、本種がまだ蔓延していない北陸の一部、北海道、沖縄の島嶼部などには持ち込まないなど、特に慎重な対応が必要である。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、内湾生態系を一変させてきた。養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。在来種との交雑が発見されており、遺伝子攪乱が懸念される。防除は困難であるが、大量発生時の汚染被害等に注意が必要。一部で養殖が行われている。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。世界の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱、環境攪乱)、農林水産業	養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。既に広範囲に分布しており、非意図的に拡散するため、規制による効果は少ないと考えられる。大量発生時の汚染被害等に注意が必要。
カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	養殖カキの殻表面に付着し養殖業に多大な被害を与えたほか、取水施設への汚損被害を引き起こしている。被害に係る知見は多いが、既に広範囲に分布しており、駆除、防除が難しい。大量発生時には汚染被害等に注意が必要。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。

### 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

和名	学名	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
タテジマフジツボ	<i>Balanus amphitrite</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐)	在来種と競合し、減少させた可能性がある。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食)	在来種との競合の可能性はある。国内での被害の知見は明確でないが、既に分布を拡大中の外来生物であり、ハラスト水等の管理などにて分布拡大を防ぐことが必要。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
ヨーロッパミドリガニ	<i>Carcinus maenas</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食)、 農林水産業	国内では未定着であるが、諸外国では水産業への被害や在来生物への捕食など多大な被害を与えている。世界の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
カラムシロ	<i>Nassarius sinarus</i>	海産	非意図的 水産物への混入	生態系(競合)、農林水産業	有明海においてハゼ漁などに多大な被害を与えている。水産資源(アゲマキなど)の輸入の際に混入するので、水産資源の輸入の際には注意が必要。
コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、防除は困難であるが、大量発生時の汚損被害等に注意が必要。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)	インドでは船舶・取水施設への汚損被害を与えている。日本でも分布を広げており、在来付着生物との競合が懸念されている。国内での被害の知見は明確でないが、今後はハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
台湾シジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>	淡水産	意図的 食用・蓄養	生態系 (競合・駆逐・遺伝的攪乱)	アメリカの河川で大繁殖し、取水施設の通水障害や在来二枚貝の生息を圧迫する等の被害を引き起こしている。国内での被害の知見は明確でないが、日本各地で分布を拡大中の外来生物であり、さらに輸入シジミには、カワヒバリガイ等の生態系に被害を及ぼす他の淡水産外来生物が混入して外来生物の移入経路になっていることから、輸入シジミ類の取り扱いについては、混入を回避するよう利用関係者による十分な注意が必要である。
シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>	海産	非意図的 食用・蓄養	生態系(遺伝的攪乱)	国内での被害の知見は明確でないが、蓄養・放流時には拡散防止の注意が必要。日本の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。
カニヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	ヨーロッパでは取水障害などの被害を与えている。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
ムネオプシスレイディ (ベリクラゲの一種)	<i>Mnemiopsis leidyi</i>	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食・競合)	黒海では、捕食によりプランクトンの群集構造に影響を及ぼし、プランクトン食の魚類の減少を引き起こした。ハラスト水の適切な管理に注意が必要。世界の侵略的外来種ワースト100(IUCN)。

### 選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

和名	学名	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>	陸産	意図的 食用	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	食害により、在来植物や農作物に被害を与えるおそれがあり、南西諸島や小笠原に定着している。植物防疫法により輸入や分布域からの持ち出しが規制されており、これらの遵守が必要である。
スクミンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	淡水産	意図的 食用	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	食害により、在来の水草や農作物に被害を与えるおそれがあり、関東以南に広く蔓延している。植物防疫法により輸入が規制されており、これらの遵守が必要であるとともに、国内でも未定着の地域に放すことのないよう注意すべきである。